

# 令和6年度 倉吉北高等学校 学校自己評価表

## 学校運営方針

### 目指す生徒像

- ・いかなる困難に直面しても、強い信念を持って立ち向かう生徒
- ・将来の夢(キャリアプラン)を語る生徒
- ・故郷を愛し、故郷を大切にす生徒
- ・社会の多様な変化に柔軟に対応できる生徒

### 目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・一人ひとりの生徒の進路実現に努める学校
- ・生徒、教職員が元氣な学校

### 今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進

### 評価基準

- A:概ね達成(80%程度以上)
- B:変化の兆し(60%程度)
- C:まだ不十分(40%程度)
- D:方策の見直し(30%以下)

当初計画			評価結果			
評価項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
① 豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活全体を通じて、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく思慮深い生徒</li> <li>○自他を大切にす生徒</li> <li>○差別やいじめのない学校</li> <li>○様々な事柄に興味、関心を持つ生徒</li> <li>○環境保全に努める生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○しっかりと挨拶が出来る生徒が多い。</li> <li>○生徒間の関係はおおむね良好だが、中には人間関係で悩む生徒もいる。</li> <li>○人権教育などを通して、差別やいじめのない学校作りを推進している。</li> <li>○探究や生徒会活動を通して、SDGsへの意識を高める取り組みをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶運動を継続する。</li> <li>○学校生活アンケート、Hyper-QU等を通して、生徒からのサインを見逃さず速やかな対応をする。</li> <li>○LHRや日常の教育活動を通して誹謗中傷やいじめがない学校を築いていくよう働きかける。</li> <li>○持続可能な開発目標の理解を図るために、生徒会を中心とした取り組みを強化する。</li> <li>○総合的な探究の時間 課題研究を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Hyper-QUで、不満足群に属する生徒への対応が迅速ではなかった。</li> <li>○部活動での指導の成果もあり、礼儀正しくさわやかにあいさつできる生徒が多い。</li> <li>○支援の必要な生徒や不登校傾向生徒に一層の対応が必要。</li> <li>○行事、各コース・各類型の取り組み等の校外学習、地域で職業を体験する学習を実施。進路選択における課題の意識づけができた。</li> <li>○探究のテーマ設定によってはSDGsへの関心を高めることができたが、全体としての意識づけは工夫が必要。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長訓話、教員からの指導を、人格形成、在り方生き方教育の観点で踏まえて充実させる。</li> <li>○修学支援会議の定期的な実施が出来なかった。</li> <li>○配慮が必要な生徒等に対して学年・教科担任団の連携を密にすると共に、ケーススタディを行うなど修学支援体制を整え、サポートする。</li> <li>○定期的な個人面接を充実させる。</li> <li>○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。</li> </ul>
② 「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改革を進め生徒の考える力を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した授業の工夫に一層の努力が必要である。</li> <li>○主体的な学びを深めるため、少人数授業や対話的、探究的授業なども取り入れている。</li> <li>○学びなおしの必要な生徒もいるため、基礎学力の定着を目的とした朝学習の時間を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT研修の定期的な実施と各教科によるICTを活用した授業研究等を実施する。</li> <li>○朝学習でClassiを利用し基礎学力の定着を図る。</li> <li>○先進校視察や教員研修で、各教員の授業力向上を図る。</li> <li>○協同学習を取り入れた授業を展開する。</li> <li>○模試等の結果分析を全教員が共有し、改善策を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合コース・調理科の朝学習では、iPadでClassiを利用。成績が伸び悩む生徒数が減っている。</li> <li>○全学年で1人1台のiPadを購入し、調べ学習や教科学習での利用が進んでいる。タッチペンも同時に購入しており、授業ノートをiPadに書き込む授業も増えてきている。また、教師指導と生徒の利用法が適切になされるよう、利用方法の確認、徹底が必要。</li> <li>○iPad持ち帰り状況、充電等の準備、自己管理状況に課題があり、授業利用がスムーズに行われなかったり、故障による修理件数が多かった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修を実施し、iPadを利用した研究授業を複数回実施する。</li> <li>○教科指導の方法を改善する。</li> <li>○特に「主体的、対話的で深い学び」の推進。</li> <li>○入試作問等として中学校教育との接続を研究する。</li> <li>○教科研究会の中で新課程の指導内容、評価の仕方等について研究を深める。</li> <li>○さらに充実したICT教育のために、ネットのつながりにくい環境の改善、生徒のiPadの扱い方の意識改善が必要。</li> </ul>
③ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。</li> <li>・面談指導の充実</li> <li>・国公立大学5名以上合格</li> <li>・就職率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別進学コースでは、希望する生徒に放課後補習や土曜補習を実施するなど、生徒一人ひとりの学力向上に努めている。</li> <li>○1年次から実施しているキャリア教育・進路探究において、その時限りの取組になりがち。3年間を通した取り組みとして、探究学習との計画的な連携が必要。</li> <li>○3年団を中心に、面接指導(三段階面接)などの個別指導が徹底されている。</li> <li>○コースや類型を中心に大学・専門学校や外部施設との連携授業や企画が増え、授業における進路や専門性の関心を高めることができた。</li> <li>○模試でSS50以上の生徒数を増やし、国公立大学や難関大学合格者数の増加に向けた進学指導を行っている。年度によって学力や進路意識に差がある現状も見受けられるので、そこを埋める取り組みが課題。進路面談を充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間を見据えたキャリアプランを作成し、各生徒の意識付けに努める。あわせてキャリアパスポートのデジタル化を推進する。</li> <li>○担任団やキャリア教育担当による面談を断続的に行い、生徒の心構えに努めるとともに、学習意欲の向上に努める。</li> <li>○Classi学習動画などを利用し、家庭学習の充実を図る。</li> <li>○朝学習にICTを活用し、個々の学力に応じた課題や弱点克服を図る。</li> <li>○高大・企業連携をさらに深めることで、出前授業などの取り組みを進め、さらに進路意識・選択の向上につなげていく。</li> <li>○ガイダンスや講演会を計画的に実施し、進路意識を高めるとともにキャリア教育の充実を図る。</li> <li>○基礎学力定着を徹底し、就職試験・入試に打ち負けない学力を身につける。</li> <li>○定着指導を通じて、離職率減を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己表現講座(3年4月)、美保基地職場見学(12月)、インターンシップ(2月)、進路別ガイダンス・体験授業(3月)など実施し、1、2年生生徒に対しても進路意識の向上を図れた。</li> <li>○総合型選抜・学校推薦型選抜に向かう生徒との面談や受験計画はある程度うまくいっているが、早めからの取りかかりがもっと必要。国公立大合格の絶対数は多くはないが、希望する生徒は確実に合格できた。</li> <li>○進学・就職とも3段階面接を実施し、一応の成果を上げている。</li> <li>○安易な指定校推薦希望が見られる。面談が必要。</li> <li>○縁故就職や卒業後計画ありの生徒が減少した。3年団の面談の成果。</li> <li>○大学31名、短大3名、専門学校22名、就職27名 計83名(3/14 現在)大学進学の割合増。</li> <li>○国公立大学合格 鳥取大、山口大(2)、公立鳥取環境大(2)、鳥根県立大、</li> <li>○就職(内定率100%) 県内66.7%・県外33.3%</li> <li>西日本旅客鉄道(株)日本郵便(株)中国支社2、(社福)立石会、(株)グッドスマイルカンパニー、東月工場、アトリリゾート(株)万翠楼、因伯通運(株)、(社福)希望の家、(有)岡本製菓、(株)皆生グランドホテル、(株)エディオン、ハナソックエナジー(株)住之江工場、日本私立学校振興共済事業団……など</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科・コースごとの大学・専門学校、企業との連携企画も増えてきた。多様な進路希望に向けて、選択一助となる取り組みの機会を一層充実させる。</li> <li>○安易な指定校希望に対しては、志望動機・将来の夢、大学比較などを促し、面談をしっかりと行う。推薦基準の明確化も併せて徹底する。</li> <li>○模試の厳格実施に向けて、部活動顧問とも連携し協力を仰ぐ。</li> <li>○履歴書・就職用調査書の様式変更、ワープロ書きのの実施に向けて準備を徹底する。</li> <li>○模試や基礎力診断テストなど、分析および事前事後のClassi学習を推進し、学力の向上を図り、GTZ(学習到達ゾーン)を向上させる。</li> <li>○「総合的な探究の時間」における「授業成果を発表する」機会を充実させ、キャリア形成意識を高め、進路実現につなげる。(継続)</li> <li>○少人数指導のメリットを活かし、細やかなキャリア支援を学年団とともに図り、生徒一人ひとりの満足度のある進路指導に取り組む。(継続)</li> </ul>
④ 部活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。</li> <li>○全国大会で活躍する生徒を育成する。</li> <li>○県大会優勝 チーム・個人 昨年度以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○礼儀正しい生徒が多く、生徒会活動でも部活動を頑張っている生徒が執行部を運営している。</li> <li>○各運動部が中国大会、全国大会を目標にして活動している。</li> <li>○目的を持って活動している生徒がいる反面、部活動に加入していない生徒も多い。</li> <li>○各活動が、それぞれ目標に向かった活動をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部活動において、競技力の向上だけではなく人間力の向上を目指した活動を推進する。</li> <li>○外部指導者・外部トレーナーなども活用し、選手の強化を図る。</li> <li>○部活動への勧誘を奨励し、活発な活動を展開する。</li> <li>○県内外の優秀な中学生への勧誘を強化する。</li> <li>○各役員が自主的に取り組めるように定期的に機会を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国大会入賞は陸上部だけだったが、中国大会で活躍する部活・生徒は増加した。継続して競技力を向上を目指し指導している。</li> <li>○各活動において、競技力の向上は見受けられたが、人間力の向上を目指した活動に関しては、指導者や役員ともに未熟な点があった。改善の余地がある。</li> <li>○生徒が自ら考え行動できるように学校生活・校外学習・部活動等を通して導くことはできている部とできていない部との差があるのが現状である。</li> <li>○外部トレーナーや外部の体幹トレーニングなどの活用ができた。</li> <li>○県内外の優秀な中学生への勧誘のための視察や情報収集はできている。</li> <li>○各役員が自主的に取り組める機会を引き続き与えていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動へ加入を継続的に奨励し、活発な活動を展開する。</li> <li>○顧問・外部指導者・役員・保護者など部に関わる人が、コンプライアンスを守り、人間力の向上を目指した活動を心がけていく。</li> <li>○外部トレーナーなど外部の専門技術を持った方を活用し、選手の強化を引き続き図る。</li> <li>○使用場所、設備、備品など安全点検の徹底を図る。</li> <li>○県内外の優秀な中学生勧誘のための視察・情報収集を徹底していく。</li> <li>○部活動と地域との関りを意識した活動も取り入れていく。</li> <li>○各役員の見解も取り入れながら自主的に取り組める環境を築く。</li> </ul>
⑤ 社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や施設でのボランティア活動への参加を積極的に呼びかけている。</li> <li>○地域貢献のボランティアや進路選択に向けたボランティア参加が増えている。</li> <li>○生徒会、部活動、福祉類型選択者などが活動を行っている。</li> <li>○探究活動を通して、地域貢献に関わろうとする生徒も出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア募集を各クラスに掲示、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかける。</li> <li>○ボランティア活動に個人で参加する生徒の増加のために、生徒の進路を把握し、一人一人に呼びかけいく。</li> <li>○地域貢献に向けて、社会課題・地域課題を情報発信し、具体的に地域貢献に関わろうとする生徒を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア募集を各クラスに掲示、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけを行った。</li> <li>○生徒会表彰式で徐々に2名の生徒がボランティア表彰を受けた。</li> <li>○ボランティア活動に個人で参加する生徒は、コロナ感染が落ち着いてから増え、回数も増えてきた。参加人数19名(R5.16名)、参加回数45回(R5.26回)また、インターアクトクラブの活動と一緒にボランティア活動ができる機会が増えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア依頼も増えてきた。それに伴って個人参加、部活での参加など、継続的に呼びかけを行っていく。</li> <li>○地域貢献に向けて、年二回は地域清掃活動を入れていく。</li> <li>○地域活動への参加依頼があれば、倉吉北高校として積極的に参加できるようにしていきたい。</li> </ul>
⑥ 安心安全な学校生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症対策、感染防止対応が十分に出来ている学校集団</li> <li>○自転車登校する生徒へのヘルメット着用の意識向上</li> <li>○校則、マナーを守り、規範意識を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いは徹底されてきたが、教室、部室等の衛生管理の徹底が必要</li> <li>○教室内の換気は毎時間行っている。</li> <li>○登下校時の確認。</li> <li>○関係機関と連携し研修会等を行う。</li> <li>○自転車通学生のヘルメット所持率はほぼ100%だが、郊外での着用率は不明。</li> <li>○服装頭髪、携帯電話の取り扱いなど、軽微な校則違反が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗い、換気、消毒を徹底する。</li> <li>○寮におけるガイドラインを守り、規則正しい生活をする。</li> <li>○授業内容及び行事など感染対策を継続して行う。</li> <li>○ヘルメット着用を呼びかけるとともに、実際にあった事案を基に、ヘルメット着用の重要性を考えさせる。</li> <li>○違反者に対する指導法を工夫し、ルールの意味を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いについては生徒が意識してしているが、コロナ対策終了後ペーパータオルがないので滴が落ちて手洗い場の環境が悪かった。換気は意識してやっていた。消毒する習慣は確立されていた。</li> <li>○ヘルメット所持率はほぼ100%であるが、校外での着用率は低い。</li> <li>○服装頭髪、特に女子生徒のスカート丈やスカート下にジャージを着用する違反が多く見られている。</li> </ul>	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンカチの所持、使用を啓発する。校内での感染防止対策を保健委員会などで話し合い活動を活性化させる(教室喚起、手洗い等の注意喚起)</li> <li>○早い時期での自転車点検(ヘルメット、ステッカー)を実施するとともに、生徒への呼びかけを行う。</li> <li>○違反生徒に対する声掛けやルールを守ることの大切さを考えさせる。</li> </ul>